

アメリカコハクチョウと松井先生

谷岡 隆

056-0006 静内郡静内町中野町2丁目6番38号

電話口から「はあ〜い、松井です」とあの上品で独特な声が、今でも聞こえて来るような気がする。私の場合、野鳥との本格的な出会いがアメリカコハクチョウで、そして松井先生と切り離すことは出来ない。

しかし、昨年、松井先生がお亡くなりになった葬儀会場でも思い巡らせてみたが、最初の出会いが不明瞭で私が先生に電話をしたのか。それとも新聞報道等を見て先生が私にコンタクトをとってくれたのか、その時期と場所を性格には思い出すことが出来ないが、恐らくアメリカコハクチョウ越冬の二シーズン目だと思う。

国内で越冬するのは僅かに数羽という希少種であるアメリカコハクチョウが、昭和62年11月6日、突然、静内町の静内川に姿を見せ、翌年の昭和63年4月9日まで146日間、静内川、浦河町・日高幌別川、様似町・様似川を往来する形で越冬した。

オオハクチョウしか越冬せず、コハクチョウの中継地にもなっていない北海道日高地方でなぜ、コハクチョウの亜種であるアメリカコハクチョウが越冬するのだろうか。という疑問は解けてはいないが、今考えても不思議なことだと思っている。

当時、野鳥が好きで写真を撮ることに没頭していた私にとってそれは大きな出来事との遭遇であった。理由はこれが起因して、現在のマガン観察へとつながって行ったからである。

やがて松井先生がアメリカコハクチョウ越冬を何かで知り、昭和63年2月7日、最初の越冬地である浦河町と様似町を訪れ、アメリカコハクチョウを発見した様似町の金子寛康さんと餌付けをしていた馬場幸子さんに会いに行っている。

その時の報道で松井先生は「コハクチョウが紋別地方〜苫小牧地方以東の河川や湖で確認されたのは初めてで、道北から日本海側の道央を通る確認済みコース以外に、道東の湖沼を経由した渡りのコースの存在を証明する初めてのデータになる。また、道内ではコムケ湖で数回確認されただけで、越冬すれば初めての記録となる」と感想を述べているが、同時に「道内初観察とも言えるアメリカコハクチョウがここで確認できたのは、金子さんの注意力のほか、馬場さんの日常の努力のおかげ」といかにも松井先生らし心遣いと言葉が印象深い。

結局、翌年の2シーズン目以降、アメリカコハクチョウが越冬の基点を静内川としたため、私も観察するべく静内川へと通い、松井先生とも出会えることとなる。

思い出すのは、アメリカコハクチョウが約四千キロも離れたベーリング海のチュコト半島付近からやって来ること。希少種であり、国内でも定期的に越冬するのは岩手県北上川だけであることなどを熱っぽく語ってくれたことで、ほかにも観察ポイントなどを教えてもらった。また、写真を撮っては松井先生に送り、その都度、必ず「ど

うも有り難う…」と電話やハガキを頂いたが、その喜んでいただく声を聞きたくてアメリカコハクチョウに会いに行つたと言っても過言ではない。

また、ある日曜日、家でゴロンとしていると、家内が「お父さん、松井先生だよ」と言うので外に出ると、運転手さん付、紺色ベンツから松井先生が降りてきて、「アメコを見たくなくなったので静内町まで来ました」と突然、我が家へ来訪。びっくりもしたが、何十軒もある役場官舎をどのようにして調べ、我が家まで来たのか不思議であったと共に、このような出来事が沢山あり先生の人柄に心酔していったことと合わせ懐かしい思い出である。

そして、もう一つ、平成5年、翌年の現地研修会開催地が諸事情で難航していたおり、松井先生から来年は是非、静内町でと依頼され、今日とは違い町マイクロバスの運行が容易な状況下であった時代でもあり、苫小牧市と静内町間の交通アクセスの悪さを町のマイクロバスで補い、平成6年2月19～20日、静内町で「第18回日本白鳥の会現地研修会」を開催、白鳥の会というより松井先生のお役に立てたことが、私にとって一番の思い出となっている。

しかし、平成7年、地球温暖化現象に起因、何の前触れもなく突然にマガンが静内町で越冬を開始、以後、毎日の観察が必須となり、一人ではマガンとハクチョウの双方を同時に観察する余裕もなくなり、平成10年、アメリカコハクチョウ越冬が終了したことも重なり、ハクチョウとの縁が段々と希薄となっていき、松井先生ともお会いする機会も少なくなっていっことは申し訳ないと思っている。

でも、私にとって先生はいつも心の中におり、平成10年、ハクチョウの写真集「白い恋人たち」出版記念パーティーでもお目にかかれたし、現地研修会も平成8年・クツチャロ湖、平成15年・クツチャロ湖、平成16年・水戸市、平成17年・豊科町と最近は出席しているが、一昨年のクツチャロ湖での再会が松井先生とは最後となってしまった。

平成3年2月、一週間一人で旅をし、宮城県・伊豆沼では笠原さん。新潟県・瓢湖では吉川さん。福井県・三方五湖では辻さん。鳥取県・中海では安田さんと、日本を代表するハクチョウ越冬地を訪れ、地元で活躍する愛鳥家と交流を深めることが出来たのも、先生のハクチョウの対する深い愛情と情熱を拝見し、自分も何かをしなければと触発されたのがきっかけであり貴重な経験となった。

11年にわたるアメリカコハクチョウとの付き合いはハクチョウ、野鳥観察の原点となり、観察を通じ、言葉を交わすことができないのに時折、お互いの意志が通じたかのような不思議体験も何度か経験させて頂いた。私にとってアメリカコハクチョウとの出会いはイコール松井先生であるが、そのアメリカコハクチョウと引き合わせてくれたのは松井先生であると今でも私はそう信じている。

松井先生、有り難うございました。